

# ADL 向上への取り組みと老人ホームとの連携

施設名：介護老人保健施設 やすらぎの里

発表者：仲田 祐希斗

城間 淳

池間 綾乃

## 【はじめに】

令和3年度、介護報酬改定に伴い、様々な専門職が協働して情報を共有し、利用者のより良い在宅生活を支援するように配慮が必要とされている。

コロナ渦でデイケア閉鎖に伴い PT が当有料老人ホームへ出張するという経験を通して、介助方法の統一や情報共有不足から老人ホーム職員の ADL 向上に対する意識の低さを実感した。デイケア利用時と老人ホームでの、している ADL に差がある状態であった。

今回、退院後老人ホームへ入居され当デイケアを利用することになった方の ADL 向上に向けて取り組み、老人ホームへの情報共有を図り自立度向上へ繋がった事例を報告する。

## 【事例紹介】

- ・79歳 ・男性 要介護3
- ・診断名：偽痛風（R4.6.7）、認知症  
左腓骨神経麻痺
- ・老人ホーム  
リクライニング車椅子使用  
基本動作・ADL 動作共に全介助
- ・PT 評価  
スタンダード車椅子  
基本動作・ADL 動作共に軽介助

## 【取り組み】

デイケア	PT 評価にて老人ホームへスタンダード車椅子可能と申し送る
老人ホーム	スタンダード車椅子無理との思い込み強く改善せず
デイケア	繰り返し申し送りし、実際に老人ホームでの動作指導
老人ホーム	徐々に利用者に対する捉え方に変化
デイケア	デイでのスタンダード車椅子を老人ホームへ貸出
老人ホーム	スタンダード車椅子お試し。不安に感じることを共有し、安心・納得し、スタンダード車椅子へレンタル変更

## 【結果】

- ・FIM 初期 → 現在  
デイケア 57/126点 → 61/126点  
老人ホーム 33/126点 → 53/126点  
運動項目で大幅な改善がみられた。
- ・HDS-R: 初期4点 → 現在4点
- ・スタンダード車椅子使用
- ・車椅子自走可能
- ・移乗動作軽介助
- ・食事 箸使用しセッティングにて自立

## 【考察】

老人ホームにおいては専門的なスタッフがおらず、口頭や紙面での伝達のみでは現状の方法を変えることが難しい状態となっていた。また、入院時の情報がリクライニング車椅子対応だったことで老人ホームではその情報のままの介護していた。

実際に PT が老人ホームへ繰り返し出向き、その人に合った介助やできる ADL 指導をすることでスタッフの不安を取り除き、納得・安心して車椅子を変更し、食事や移乗動作の自立度向上にもつなげることが出来た。

老人ホームでの ADL の現状を把握し、本人の持っている能力を実践してもらうには、リハマネジメント会議等のみではなく、実際に現場へ入り込んで指導し、密な情報共有を図ることが、スタッフの ADL 向上に対する捉え方が変わり、介護の意識が高まったと考える。

## 【まとめ】

デイケアの PT の役割として個別での訓練だけでなく、他職種との連携や ADL 指導などいわゆるハンズオフの領域に積極的に関わり、在宅や老人ホームでの ADL 向上につなげるかが課題と考える。

病院や老健と比べて専門職が少ない老人ホームで専門的な情報を伝達し現場で活かすことが出来るよう関わっていききたい。